第５学年３組　図画工作科　学習指導案

千葉市立都小学校
指導者　　岩村　侑紗

１．　題材名　「こんなところに小人が…」（鑑賞）

２．　題材について

小人とは、伝説上の小型の人間、または人間に近い容姿を持つ妖精のことである。白雪姫に出てくる７人の小人については、誰もが一度は目にしたり、耳にしたりしたことがある。また、このような小人の伝説は日本にもあり、北海道の先住民族であるアイヌ族には、コロボックルという小人の存在が言い伝えられている。こういった小人の存在は、絵本やアニメのキャラクターとして子どもたちに人気があり、馴染み深いものである。そんな小人が本当に実在していると考えると、子どもたちの胸は高鳴るのではないだろうか。さらに想像を膨らませて、それらが誰もいない教室でいたずらをしている、大勢の小人がグラウンドで遊んでいるなど、子どもたちにとって親しみのある学校のあらゆる場所に存在して生きていると考えると、ドキドキ、ワクワクした気持ちで児童の感性がより一層刺激されることだろう。本題材では学校にいそうな小人を想像して製作し、その小人が実在しそうな場所を背景に小人を設置し、写真を撮影した後に鑑賞をすることとする。

本題材は新学習指導要領の第５学年及び第６学年の目標（３）「親しみのある作品などから、よさや美しさを感じ取るとともに、それらを大切にしようとする。」内容　Ｂ鑑賞（１）ア「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。」（１）イ「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。」のア、イ両方にあたる。

＜学習の活動＞

本題材は鑑賞の学習である。今まで見過ごしてきたり、ただ眺めていたりした風景の美しさや面白さに気づき、新たな発見をすることで造形的なものの見方を養うことをねらいとする。そのためには、感じたことを伝え合う力を培いたい。どんなところを工夫したのか、友達の作品の良さはどんなところかなど、対話をすることで、伝え合う力をさらに培うことができるだろう。それが、造形的なものの見方を養うことにつながっていくと考える。

本題材の活動内容は、鑑賞→表現→鑑賞の順に展開し、鑑賞と表現を関連させながら進めていくことを考えている。まずは場の鑑賞である。カメラのファインダーを通して小人がいそうな場所を探していく。児童は「ここにこんな小人がいたらいいな」と想像を膨らませながら撮影を進めていくだろう。その経験を幾度も繰り返し、感性をたくさん働かせて活動させたい。そして複数枚ある写真の中から、自分の思いにあった写真を選択する。写真を選び抜く作業も、鑑賞活動であると考える。写真をじっくりとみて、自分がどのような小人がいるつもりでシャッターを押したのかを再認識する。自分自身との対話を楽しみながら、取捨選択を行っていく。思いのままに写真におさめ、その中からさらに鑑賞し、取捨選択を行えるということは、デジタルカメラの特性であり、児童にとって興味深い鑑賞活動であるといえるだろう。次に表現活動である。撮影した写真をもとに、その場所にいそうな小人を想像して紙粘土で作っていく。児童にとって紙粘土は慣れ親しんできた素材で、色をつけたり形を作ったりしやすいので、児童の想像を実体化するのに適していると考える。前段で、「ここにこんな小人がいたらいいな」と想像を膨らませながら撮影をしているので、小人の製作もしっかりとし

た自分なりの思いを持って活動に取り組むことができるだろう。この小人を製作する段階でも、鑑賞を行う。製作しながら、自分の思い描いたイメージに合っているのかと何度も小人と写真を合わせながら製作していくことだろう。また実際に、製作途中に最初の場に持っていくのもいいだろう。自分が作りたいものに近づけるために思いを深め、鑑賞と表現を何度も繰り返しながら製作していくことで、作品の面白さやよさを感じ取ることができるのではないかと考える。また、児童自身の自分の作品を大切にしようとする思いが高まると考える。そして、製作した小人をその生息地へ（最初に撮影した場所）と連れて行く。初めに鑑賞した場と、自身が作りだした小人が合わさることで、思いが高まることだろう。それをデジタルカメラで一枚の写真におさめる。写真を撮影する際には、自分のイメージに合わせるために、小人と背景とのバランスやその場にあるものを小道具として使うなど、最適な構成を試行錯誤し、何枚も写真を撮ることも考えられる。しかしながら、撮影した作品を実際に見ると、自分の思いと異なることがあるかもしれない。そこで、写真をプリントアウトする前に、必要に応じてパソコンの画面上で、トリミングをしたり、ワイドやズームにしたりするなどの構図を考えることとする。小人の写真を撮ってプリントアウトするまでの一連の流れそのものが、自己鑑賞(※)の活動となる。そして、最後に鑑賞会をしてみんなで見合う相互鑑賞(※)の時間をとる。鑑賞するには、何枚も撮影した中から選び抜いたお気に入りの写真を用い、４～５人の少人数のグループで一人ずつ発表する。ただ自分の思いを発表するだけでなく、グループ内での対話が活発となるよう、クイズ形式の発表も取り入れる。そうすることで、「なぜここに小人がいると思ったのか」「なぜそのような小人の形にしたのか」というように、鑑賞者が製作者の作品に対して興味をもち、さまざまな問いを持てるようになるだろう。そして、友達の作品をみて、自分なりの思いを膨らませると考える。鑑賞者が友達の作品をみて感じたことを、グループ内で話し合う活動も行う。製作者は自分の思いを伝えるだけでなく、自分の作品を見て、友達がどのように考えたかを聞くことにより、友達の感じ方に共感したり、同じ作品でも人によって感じ取り方が様々であることに気づいたりすることが期待できる。以上のように、本題材では鑑賞と表現を繰り返しながら活動していきたい。

＜児童の実態＞

本学級の児童のほとんどが図工の授業が大好きと答えている。特に着色したり、紙を切ってつなぎ合わせたりする造形活動を好んで行う。しかし、自分だけのオリジナル作品を製作しようとすると、手が止まってしまう児童が数名いる。それは、思いがあって表現することができないのではなく、それ以前に発想が乏しくイメージを膨らませることを苦手としているからであると考える。また、鑑賞の時間になると、ただ「よかった」「上手だと思った」という言葉のみで、具体的に作品の良さを感じ取る力が未発達であると考える。さらに、学級全体の前での発表は緊張してしまうという児童が多くいる。こういった点で話し合いが充実しないのも学級の実態の一つである。

コンピュータは総合的な学習の時間や社会科の学習において使用しており、基本的な操作は行うことができる。しかし、コンピュータを使って写真をトリミングしたり、ズームしたりする加工作業は経験したことがない。またデジタルカメラでの撮影は、家庭や学校で数回の経験がある児童がほとんどであるが、その大半は行事や授業などの活動を記録するものである。その中で、構図を考えたり、背景にこだわったりするような造形的なものの見方を持って撮影しているものは少ないと考えられる。デジタルカメラの撮影にこだわりを持って、自分の作品を撮影するという行為は、本学級の児童にとって新鮮なものである。

＜手立て＞

本学級の実態を踏まえ、次のような手立てを講じたい。まず、作品のよさや美しさを積極的に感じようという意欲を喚起させるために、児童の好奇心や意欲などを触発する題材を設定する。小人は本来、幻のような存在とされている。しかし、その小人が普段過ごしている学校に存在しているとしたらどうだろうか。自然と胸がワクワクし、非常に魅力的に感じるだろう。実在しないということは、制限がないということである。自分の思い描くままに製作する小人は、まさに世界でたった一つだけの作品となる。つまり、できあがる作品は作品の形や色、構成や奥行き感など、一人一人異なった魅力を持つことになる。小人という架空の存在だからこそ想像力も膨らみ、自分を取り巻く生活環境への関心も高まり、小人がいそうな場所として身近なさまざまな造形物に対して好奇心を持ってみるようになるであろう。そのためにも、製作を始める前に絵本や資料をもとに、小人についての知識を蓄えたり、導入段階で話し合いを中心に持ったりして、十分に子どもたちの気持ちを耕し小人という架空の存在に思いを馳せたい。また、小人がいそうな場所をイメージできるようにすることが大切である。どんな小人がいるかどうかは、実際にカメラを持参して校内を歩き、小人がいそうな場所を撮影することで、イメージを膨らませることができると考える。また、デジタルカメラやコンピュータを使うことによって、自分の思いが表現された作品ができるまで、自己鑑賞を繰り返しながら、何度も撮影したり、コンピュータで加工したりするだろう。そして、鑑賞会では、少人数でのグループ活動を取り入れるようにすることを考えている。写真を複数枚用意し、製作者の思いをクイズ形式にするなど、発表の形態も工夫させることにより、鑑賞者が友達の作品の表現方法の意図を深く考えられるようになるだろう。さらに話しやすく、発表者と鑑賞者双方の問いが出やすくなり、鑑賞活動が充実したものとなると考える。またクイズ形式が一問一答になってしまわないように、教師が鑑賞活動の模範を示し、鑑賞者の答えに「なぜそう考えたのか」という問いをさらに投げかけるようにする。そうすることによって、鑑賞者の思いもさらに深めることができると考える。そして、一人の発表が終わるごとに、感想カードを書くようにしたい。感想カードには友達の作品をみてよかったところや、感じ方の違いのよさなどを書き、発表者の手元に視覚的に残るようにする。感想カードがあることによって、鑑賞会が終わった後も、自分の思いだけでなく友達の思いも振り返ることができる。そこから、感じ方の違いを再認識することにつながるだろう。以上のような手立てを講じ、児童が鑑賞活動と表現活動に親しみを持って学習を進めていけるようにしたい。

※本学習指導案では、「自己鑑賞」と「相互鑑賞」を以下のように定義する。

・自己鑑賞・・・表現したものを自分自身で鑑賞することで、表現に生かす姿や行為を期待する活動

・相互鑑賞・・・相互の作品を鑑賞し合いながら自他の表現の特徴やよさを理解しあい、共感へとつなげる活動。

３．題材の目標

○自分の作品を製作したり、友達の作品を鑑賞したりすることを通して、その表現の意図や美しさを感じ取ることができる。（関心・意欲・態度）

○学校のあらゆる場に目を向け、撮影した写真から自分だけの小人のイメージを膨らませることができる。（発想・構想の能力）

○作品のよさや美しさを感じ取ったり、友達との感じ方の違いにも気づいたりすることができる。（鑑賞）

４．指導計画（７時間扱い）

| 時数 | 学習内容 | 具体的な手立て |
|---|---|---|
| 1 | ○校内の場を鑑賞し、撮影する。<br>・校舎内外を散策し、小人がいそうな場所を探し、撮影する。 | ・既存の小人の資料を用いて、話し合い活動を行い、児童の小人に対するイメージを膨らませる。<br>・参考作品を提示し、学校のあらゆるところに小人が存在しているかもしれないという思いを巡らせる。 |
| 2・3 | ○小人を製作する。<br>・撮影した写真をもとに、どんな小人か想像しながら製作する。 | ・自分のイメージに合わせた小人を製作するために、撮影した写真を鑑賞しながら製作するよう促す。<br>・製作途中でも、最初に撮影した場所へ実際に行き、イメージの確認をしてもよいとする。<br>・イメージが膨らまない児童には、写真を見ながら、その場の特徴についての対話を通し、小人の特徴につなげていく。 |
| 4 | ○小人の撮影をする。<br>・製作した小人と環境を合わせ、撮影をする。 | ・参考作品を提示し、画面構成の効果を感じられるようにする。<br>・自分のイメージに合わせ、小人の配置やズームなど、画面構成にこだわるように促す。 |
| 5 | ○写真を加工・プリントアウトする。<br>・撮影した作品の中から、お気に入りの作品を取捨選択する。 | ・自分のイメージに合わせ、必要に応じてトリミングやズームの操作方法を行うようにする。 |
| 6・7（本時） | ○鑑賞会をする。<br>・自分の作品の工夫した点や小人の特徴をまとめ、発表の準備をする。<br>・撮影した写真を発表する場ごとに展示する。<br>・自他の作品を鑑賞し、感じたことや思ったことを話し合う。 | ・鑑賞会のグループを少人数にし、どの児童も発言しやすい環境にする。<br>・鑑賞する視点を確認し、具体的に鑑賞できるようにする。<br>・問いを中心にした話し合い活動を行うことによって、作品のよさや表し方の違いに気づけるようにする。 |

５．仮説との関連

本単元を通し、児童は本時までに、多くの鑑賞と表現を繰り返してきた。その鑑賞とは、主に自分対自分の自己鑑賞である。児童自身の思いに合わせて場を鑑賞し、また場の鑑賞から刺激を受けカメラのシャッターを押す表現活動を行った。さらに、撮影した写真をもとに自分の思いを高め、小人を製作した。製作しながらも、やはり自分の思いに近づけるため写真をじっくりと鑑賞し、製作途中の小人を鑑賞しながら手を加えていった。そうして出来上がった小人を、生息地（最初に製作した場所）へ連れて行き、再度場の鑑賞をしながら、場と小人を融合させ写真におさめるという表現活動を行った。その後も、複数枚撮影した写真の中から取捨選択して選び抜くという鑑賞活動を行ってきた。

本時では、これまで自己鑑賞してきた作品を友達に発表し、お互いに鑑賞し合う。鑑賞活動を通して、作品のよさや美しさを感じ取ったり、友達との感じ方の違いにも気づいたりすることをねらいと

する。

しかし、本学級の実態を踏まえると、ただ単に学級全体で鑑賞活動を行ったとしても、「きれいだと思った。」「上手だと思った。」というような表面的な鑑賞だけで終わってしまうだろう。また、一部の児童のみが発言する鑑賞会になってしまうということも考えられる。そうすると、いろいろな友達の意見を聞くこともできず、感じ取っているのにも関わらず発言することができない児童の感じ方のよさを広めることが難しい。さらに製作者の思いをより深く聞くことも、困難になるだろう。

そこで以下のような手立てをとる。

**作品から感じ取った表し方の違いやよさを伝えあう学習活動の工夫をすることで、表現の意図や特徴などをとらえ、意欲的に鑑賞活動に取り組むことができるようにする。**

○のびのびと自分らしさを発揮できる場の設定の工夫

鑑賞会における学習形態の工夫が必要であると考え、グループ相互鑑賞を取り入れる。今回は学級を４～５人ずつのグループに分けて、順番に自分の作品を製作者が発表する。鑑賞し合う人数を少人数編成にすることによって、コミュニケーションがとりやすくなり、発表者と聞き手の対話をスムーズに行うことができる。普段何気なく会話をしている感覚で、聞く側も友達の意見を聞きやすく、作品の表し方の変化、表現の意図や特徴など感じ方の違いに気づくことができるであろう。

○児童の表現の意欲を支える共感的支援の工夫

作品の提示の仕方も工夫する。ただ、作品を提示して、自分の思いを伝えるだけでなく、問いを中心とした話し合いを構成することで、製作者と鑑賞者の思いのやりとりを活発化したい。ここでいう問いとは２つあると考える。鑑賞者からの問い（なぜこのように製作したのだろうか）と、製作者からの問い（友達はなぜこのように製作したのだろうか）である。この２つの問いを大切にすることで、より一層対話が高まると考える。その対話の中で感じ方の違いに触れ、自他の作品のよさをとらえることにつながると考える。さらに対話が活発になるように、製作者からの問いは、ワークシートを用いて事前に用意しておくようにする。事前に考えておくことで、発表が苦手な児童も落ち着いて発表できるだろう。また、感じ方の違いがあっても、それを認め合ったり、そのよさに気付けたりするよう、一人の発表が終わったあと、感想カードを書くようにする。友達の作品のどのようなところがよかったのか、自分との感じ方の違いなどを製作者にカードとして渡す。製作者は、友達の考えが手元に残ることで、あとからでも友達の感じ方を振り返ることができるだろう。本時の学習が終わったあとも、友達の感じ方に共感したり違いに気付いたりすることができると考える。

６．　本時の指導

（１）　本時の目標

○　少人数で対話を通して、作品のよさや美しさを感じ取ったり、友達との感じ方の違いにも気づいたりすることができる。

（２）　展開

| 学習内容と活動 | 教師の支援 | 評価の観点 |
|---|---|---|
| 1.　これまでの学習を振り返る。 | ○児童が本時の活動の見通しを持てるように、本時までの流れを写真を用いた掲示を参考に振り返る。 | |
| 2.　本時のめあてをつかむ。<br>友達の作品をみて、よいところを伝え合おう。 | | |
| 3.　鑑賞する際の視点を聞く。<br>・小人の生息場所について。<br>（製作者の友達は、なぜその場所にそのような小人が生息していると考えたのだろうか。）<br>・小人の姿・形について。<br>（製作者の友達はなぜ、小人をその色にして、そのような形にしたのだろうか。）<br>・写真の画面構成について。<br>（製作者の友達は、なぜ写真の画面のその場所に小人を置いたのだろうか。） | ○児童が友達の作品をみて、具体的に作品のよさや美しさを感じ取れるように、鑑賞する視点を伝える。<br>○小人の表情や形、色、表し方のおもしろさや工夫などを、自分の感覚で気付けるようにする。<br>○一人一人が自分の感じ方を大事にして思いを巡らせることが大切であると伝える。<br>○問いや感想を伝えあうときには、製作者の思いを尊重した言葉遣いをするように促す。 | |
| 4.　教師が発表する参考作品を鑑賞する。 | ○児童が抵抗感なく鑑賞活動に取り組めるように、教師が参考作品の発表をする。<br>○鑑賞の視点に気付けるように、鑑賞の視点をおさえた問いをする。 | |
| 5.　学級を６グループに分け、交代で友達の作品を鑑賞する。<br>・発表者は自分の作品の工夫したところや見てほしいところを問いにして、聞 | ○友達の作品をみたときの新鮮さを感じるために、発表するまでお互いに写真を見せないようにする。 | ○友達の見方や感じ方に、共感したり違いを感じたりし |

| | | |
|---|---|---|
| き手に伝え、鑑賞者は自分なりの考えを伝える。<br>例１「この小人は何をしているところでしょうか。」<br>『みんなが帰ったあと、下駄箱の上履きを整頓しているところだと思います。』<br>例２「この小人の特技は何でしょうか。」<br>『手が大きく長いので、ソフトボール投げだと思います。』<br>・鑑賞者は鑑賞をしたあと、感想カードを製作者に渡す。 | ○発表者だけが話すのではなく、鑑賞者がどのように感じたのかを聞くために、問いかけるよう促す。<br><br>○友達の作品を見て、感想や質問などをうまく発表できない児童には、鑑賞の視点について再確認するよう声をかける。<br><br>○友達の作品のよいところや、自分との感じ方の違いをカードに書くようにする。 | ているか。（鑑賞） |
| 6.　友達の作品を見ることで感じたことを発表し、本時の学習を振り返る。 | ○作品を鑑賞し感じたことや想像したことを発表したり、友達の意見を聞いたりしたことにより感じ方や見方の違いを認め合うようにする。 | |